第４回「第４期南砺市地域福祉計画」策定委員会　議事概要

日　　時　　令和８年 10 月 21 日（水）14:00～15:10

場　　所　　南砺市地域包括ケアセンター２階　多目的研修室

出席委員８名	南砺市社会福祉協議会　会長	中山　繁實
（敬称略）	社会福祉法人マーシ園 法人本部事務局長	山田　浩司
	特別養護老人ホーム福寿園　施設長	吉田　孝幸
	南砺市地域づくり協議会連合会　会長	戸成　博宣
	男女共同参画推進員南砺市連絡会　代表	佐竹　弘昭
	南砺市手をつなぐ育成会　会計	奥村　雄一
	南砺市ボランティア連絡協議会	山下　文子
	公募委員	傍田　裕子
欠席委員７名	富山福祉短期大学　教授	鷹西　恒
	ＮＰＯ法人南砺市医師会　理事	松　　智彦
	南砺市民生委員児童委員協議会　会長	得能　金市
	南砺市シニアクラブ連合会　女性副会長	廣瀬　恵美子
	南砺市身体障害者協会　会長	藤井　千悦
	公募委員	長田　唯似
	公募委員	古瀬　陽子

事務局	南砺市地域包括医療ケア部　部長	松岩
	南砺市福祉課　課長	髙見
	南砺市福祉課　社会福祉係長	得能
	南砺市福祉課　社会福祉係　主任	小室
	南砺市福祉課　社会福祉係　主任	中上
	南砺市福祉課　社会福祉係　主任	竹田
関係課長	南砺市地域包括ケア課　課長	大橋
	南砺市健康課　課長	金兵
	南砺市こども課　課長	山田
	地域包括支援センター　センター長(代理)	斎藤
	南砺市社会福祉協議会 課長	村澤

１．開　　会

２．委員長あいさつ

本日は「第４期南砺市地域福祉計画」第４回策定委員会ということで、お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。計画策定も佳境に入っておりますが、第４回ではいよいよ本文を協議していきます。計画をより良いものにしていくために、皆様方のさまざまなご意見を、前回と同様にいただければと思います。

３．議事

・「第４期南砺市地域福祉計画」素案（第４～６部）について事務局より説明

資料１（前回会議について開催の概要および委員発言の要点を説明）

資料２（素案第４～６部および計画に関する指標等について変更点を中心に説明）

委　員　長：素案については、事務局から説明があったとおりである。私も目を通してみたが、委員の皆様方の意見を踏まえて整理されていると感じている。それでは委員の皆様からご発言をお願いしたい。

委員長代理：第４期の数値目標について、令和７年度の実績を踏まえて令和 13 年度の目標を示していること、今回の改定では新たな視点から、第３期になかった数値目標を第４期で追加したという意図も承知した。その中で、指標の文言が第３期と変わっているところがある。それぞれ理由を教えてほしい。

・指標３「健康づくりボランティア活動回数」について、第３期「活動者数」から「活動回数」への変更。

・指標 43「就労しながら無理なく子育てすることができると感じる市民の割合」について、第３期「保護者」（素案 73 ページ）から「市民」（74 ページ）への変更。

・素案 91 ページの第３期数値目標にある「支え合いマップ作成地区数」が第４期ではなくなっており、数値目標ではなくなった意図も伺いたい。

事　務　局：１点目の「健康づくりボランティア活動者数」は、『南砺市民健康プラン』での指標が、「活動者数」から「活動回数」に変更になったためと健康課から伺っている。

２点目の「就労しながら無理なく子育てすることができると感じる保護者の割合」は、毎年実施している『南砺市総合計画』の市民意識調査での用語が変わったことに合わせた記載としている。

３点目の「支え合いマップ」については社協からお答えいただきたい。

社協課長　：「支え合いマップ作成地区数」について、第３期では令和８年の目標を 31 地区全てとし、令和７年度末で 24 地区が作成した。従来、社協では「支え合いマップ」づくりを推進していたが、災害が頻発する中で、令和５年度より「災

害時支え合いマップ」づくりに重点を置いている。「支え合いマップ」づくりを止めたわけではないが、現在は社協の取り組み強化の項目と方向性を合わせたためである。なお、「災害時支え合いマップ」については、31 地区中 10 地区ほどで作成が進んでおり、今年度も新たに３地区で取り組んでいる。

委　　員：計画策定の参考になるか分からないが、直近でやっている「サポートノート」という活動を紹介したい。子どものことを誰かに託す時に口で言ってもなかなか伝わらない場合がある。そこで、子どもの特性や出生時からの状況、母子手帳の内容、日常の生活、あるいは医療機関を受診する際の注意事項など、他人の方が関わる場合に、その子とどのように接してほしいかという親の思いをノートに書き記している。非常にボリュームがあり、１人でやっていると挫折するので、作業を一度に詰めてやるのではなく、今年は何ページ進めようとか、あの人が書いたものを参考にしようとか、皆で集まって書くことを継続して何年かやっている。１人ではなかなか進まないので、気長に取り組んでおり、来年も実施予定である。親がみられない時、子どもを他人に託す際の資料を作っていく活動を継続することで、こういった計画に何か役立つことがあるかもしれないし、あるいはそれぞれの親から子どもが離れる時の手助けになると思っている。

委　　員：素案 98 ページ（２）移動サービスの支援について確認したい。「外出支援サービス利用者数」とは具体的に何か。また、「重度心身障がい者のタクシー券助成の充実」については、我々の施設利用者も非常に興味を持っている。

事　務　局：外出支援サービスは、高齢者等を対象とした福祉タクシー券の利用だと伺っている。

委　　員：従来のタクシー券利用者を 134 人から 150 人に増やすということで承知した。素案 147 ページの「重層的支援体制の整備」で、「～支援機関・地域の関係者が断らず受け止め、～」（同４行目）とあることは、非常に安心感がある。一方で、「断らず受け止め」る対応には市も苦労されていると思う。さまざまな意見をあげてもらわないと地域が良くならないが、中には無理難題が出てくることもある。10 月にはカスタマーハラスメント対策が義務化されており、いろいろな声への市の対応についてコメントをいただきたい。

地域包括支援センター長代理：

相談事業については、障がい者、高齢者にかかわらず、窓口にはさまざまな方がいらっしゃるので、まずはしっかり現状把握させていただいている。中には声を荒らげる方もいらっしゃるが、その方が本当に訴えていることを把握できるように努めている。また、女性１人での対応が難しい場合は、２人で対応するなど、カスハラを起こさせないように工夫をしながらの対応を心がけている。

委　　員）：数値目標 42「不当な差別的扱いや嫌な思いをしたことがない人」について、現状の 42.7%に対して目標が 40.0%と少なくなるのでよいのか。

事　務　局：こちらは『南砺市障がい者計画』の数値を書いているようなので、担当課に確認し、次回の策定委員会でお答えしたい。

委　　員：今回の素案では、前回発言したことがおおむね反映されていると理解した。計画に取り入れられるだけでなく、ぜひ実現していくようお願いしたい。

委　　員：より良い計画にするために、さまざまなアンケートなどをもとに素案を出されたと思う。この計画がこれからの社会にも反映されればいいと思う。
私は富山県広域消防防災センター運営委員会にも入っているが、先日の運営委員会で、近年の災害の激甚化や広域化により、今までのような市町村単位の防災の考え方では対応できなくなってきているということが話題になった。特に南砺市は高齢者が多く、避難や消防団の活動でも、意外と自分自身の体力などを認識していない方や災害を甘く見ている方があるように思う。今後、市だけで被災対応できない可能性もあると思うが、他市との連携状況を教えていただきたい。また、県の四季防災館がリニューアルした。自治会などで、防災訓練や研修などがある際の参考として紹介したい。

事　務　局：最近の災害が激甚化していることを指摘いただいた。総務課では『南砺市地域防災計画』を取りまとめている。その中で市町村をはじめ関係各所と災害時における相互応援協定を結んでおり、一方が被災した場合には、もう一方が協力・支援する形で連携している。能登半島地震の時には、南砺市の職員も災害協力で現地に行った。令和６年の酒田市での豪雨災害にも、南砺市の職員を派遣しており、現在さまざまな形で対応できる広域連携に取り組んでいる。
また、民間企業とも防災の協定を結んでいる。被災によって現地に直接入れない場合でも、ドローンであれば現地に向かえることから、災害が発生した場合は、連携先の会社がドローンを飛ばし、航空写真で被災状況を確認する形での協力を想定している。

委　員　長：大規模災害時には行政間で相互協力し、民間団体との連携協定によって取り組んでいくということである。
私から数値指標についても何点かお聞きしたい。
・指標６「通所型サービス A・B・C、週１サロン実施箇所数」について、39 箇所から 74 箇所を目標としている。週１サロンが通所型サービスに含まれていないかという疑問があるため、通所型サービス A・B・C と週１サロンとの関係を伺いたい。同様に指標 17「地縁組織等による介護事業所数」というものがある。

これも 41 箇所から 74 箇所ということだが、目標数字が同じ 74 箇所だったため、それぞれの数値が重複していないか、サービス内容を確認したい。

・指標 35「認知症サポーター延べ人数」が 13,106 人から 18,000 人とあるが、この延べ人数は何を指した数か。

・指標 70 の「マイナポータルを利用したオンラインの転出届」と指標 71「住民票や身分証明書などの証明書オンライン請求（LINE）」について、単位が件数になっているが、件数が多ければいいという表現に違和感がある。例えば、届出のデジタル化率と、割合で記載したほうがよいのではないか。

地域包括支援センター長代理：

まず指標６の「通所型サービス A・B・C」は要支援１～２の方が利用されるもので、事業の対象者が異なっている。具体的には、通所型 A は皆さんがいわゆるデイサービスとしてイメージされるもの。通所型 B は南砺市で 10 箇所ほどある、住民主体によるデイサービス。そして通所型 C は、専門職によるリハビリテーションの通所サービスである。週１サロンは、住民が介護度を問わず利用できるサロンである。介護予防の推進にあたっては、厚生労働省でも週１回以上実施している「通いの場」の取り組みとしているので、週１サロンは健康な方に対して実施している事業所数ということで挙げている。

一方で、指標 17 は「地域交流拠点の整備と活動推進」にあるもので、地縁組織による介護事業所数の部分だが、先ほどは介護予防を主な目的とする事業所で、こちらは地域のつながりを求めるような事業所数をまとめたものになる。

２点目の質問の「認知症サポーターの延べ人数」は、これまで市内の小学生や中学生、企業、通いの場に集まっている住民の方を対象に行っているもので、どこかで「サポーター養成講座」を受講された方がまた別のところで受講されることもあるので、延べ人数でまとめている。小学校では小学生が理解できる内容にするなど、受講者によって内容は変えているが、重複して受講される方がいらっしゃるため、延べ人数の表記としている。これから多くの方に講座を受けていただき、認知症の理解を広めたいことから、数字は引き上げている。

委　員　長：詳しくご説明いただいたが、何の延べ人数か分かるように記載していただきたいことと、延べ人数でも１万を超える大きな数になるのか確認する意味で申し上げている。（⇒会議後、年間の受講者数とこれまでの延べ人数であることを地域包括ケア課に確認）

事　務　局：３点目の指標 70～72 では申請方法がそれぞれ異なっているのだが、委員長のご指摘のとおり、件数ではなく割合で記載することを市民課に提案したい。

委　　員：素案 151 ページ「障害者相談支援事業」の記載について、[一般相談支援事

業所］に「相談支援センターあい」が入っているところが疑問である。法律上では地域移行・地域定着の支援をするのが［一般相談支援事業所］で、指定権者も富山県である。［特定相談支援事業者］は、障がい福祉サービスの利用計画を作る、高齢者福祉におけるケアマネみたいなところだが、この書き方だと、「相談支援センターあい」は［特定相談支援事業者］の対象ではないようにみえる。［一般相談支援事業所］のあとに「・特定相談支援事業所」と追加し、［特定相談支援事業者］の「上記以外」を削除すればよいのではないか。［特定相談支援事業者］に記載される４事業所は［一般相談支援事業所］の指定を受けていないが、［一般相談支援事業所］に記載される「障がい者サポートセンターきらり～相談支援センターあい」は一般相談支援事業所の指定を受けて、かつ、特定相談支援事業所の指定も受けているはずなので、そういった表現のほうが適切ではないか。

さらに、【業務内容】に記載のある「一般相談支援」の中に「地域移行・地域定着支援」が入っている。【業務内容】に記載するなら、どこの相談事業者でもやらなければならない「基本相談」という書き方が適切だろう。市民には「一般相談」と書いた方が分かりやすいのかもしれないが、専門的な立場から指摘しておきたい。

事　務　局：ご指摘の点について、確認の上訂正させていただく。

委員長代理：この計画はこれから５年後の令和 13 年度に向けてということで、話題になっているＡＩなどはもっと進歩してくるように思う。159 ページ「（３）事業者の役割」に「デジタル技術の導入によるサービスの効率化、質の向上も推進します」とあるのは、全くそのとおりだと思うが、ハートの部分を大事にしていくということも含めて書いていただきたい。158 ページには「地域福祉の担い手として、日常的な声かけやあいさつ、ＡＩやＩＣＴを活用した新たな見守り活動～」とあり、どれだけ技術が進歩しても、人と人との温かい関わり、支え合い、守り合いが必要だということを文章のニュアンスに込められたらいいだろう。

事　務　局：技術は進歩するので、特にデジタル技術の導入について記載してあるが、心を大切にすることも重々分かっているので、こちらの表現は検討させていただく。

委　員　長：委員会が始まってから１時間を経過した。本日、発言がなかった部分で何かあれば事務局にお話しいただきたい。私も目を通した中で、例えば「安心安全なまちづくり」という表現は、先に安全があって、後に安心がくるものなので、文言を入れ替えるべきだと思う。細かな文字の修正等で気付いた点は事務局に申し入れ、修正をお願いする。次回 12 月 17 日の第５回では、ほぼ完成形のものになるだろう。

４．今後のスケジュール

事務局より次回開催日時の確認

５．閉会

委員長代理よりあいさつ

本日は皆様から活発なご意見をいただき、とても嬉しく思います。本日一番印象に残ったのは、「サポートノート」で、周りのサポートで継続していくことで、皆が達成感を味わえるという素晴らしいお話をうかがいました。委員会も終盤となりますが、皆さんとともに次回もいろいろ意見交換できたらと思っております。本日はありがとうございました。

福祉課長

本日は長時間にわたり協議をいただき、皆様から大変貴重なご意見をいただきました。

以上で第４回策定員会を終了いたします。ありがとうございました。

以　上